

出題年度：2026 年度

<問2>

【出題意図】

筆者が提示する「自立とは依存先を増やすことである」という逆説的な定義を正確に理解した上で、それを自身の経験や社会観に照らし合わせて再構築する力を問うものである。具体的には以下の3点を評価の主眼とする。

- ・ 読解力と再構成力：「自立＝無依存」という一般的な誤解を排し、「自立＝多点依存（依存先の分散）」という筆者の主張を的確に捉え、自身の言葉で説明できているか。
- ・ 論理的思考力と具体性：抽象的な「社会」や「自立」という概念に対し、自身の具体的な経験（失敗、助け合い、環境の変化など）を結びつけ、説得力のある論を構築できているか。
- ・ 社会への洞察力：単なる自己完結的な自立論に留まらず、他者との関わりや社会構造の「厳しさ」を和らげるという筆者の「社会人」観に対し、自身の考えを展開できているか。

【模範解答（評価ポイント）】

題名例：「依存の網の目を編み直す」／『『頼る』という自立の作法』／「窓口を増やす勇気」など

以下の要素をもって論じているものを評価する。

- ・ 導入：筆者の主張（自立とは依存先を増やすことであり、依存を感じない状態であること）に触れつつ、自身の「自立」に対する姿勢を提示していること。
- ・ 展開（経験）：自分一人で抱え込んで行き詰まった経験や、逆に多くの知人・ツール・居場所に助けられたエピソードを具体的に記述していること。
- ・ 展開（論考）：特定の組織や価値観（学校、家庭、一つの会社など）だけに依存することのリスクを指摘し、依存先を多層化することが精神的な自由やレジリエンス（回復力）に繋がる点に言及していること。
- ・ 結語：筆者が説く「社会人」の定義（偏った厳しさを和らげる者）を踏まえ、自分が今後どのように社会や他者と関わっていきたいかという展望で締めくくられていること。
- ・ 形式：720字以上800字以内の指定字数を満たし、論理的な段落構成がなされていること。